

## NPO 法人 ひの市民活動ネットワーク訪問

訪問日時：2020年9月16日（水）13：00～14：30

場所：ひの市民活動支援センター

ご対応いただいた方：M 様（同団体事務局長）、K 様（日野市地域協働課）

### ■ひの市民活動ネットワークについて

- ✓ 同団体は市内コミュニティ、市、市民をつなぐハブ的な存在。
- ✓ 同団体に加盟している NPO、ボランティアなどの加盟団体は 40。非加盟を含めると 200～300 程度の団体が存在している。
- ✓ 同団体では、市内の NPO やボランティア団体を冊子にまとめている。
- ✓ 同団体の役割は、加盟 40 団体の運営サポート、市民フェアやまち活など交流イベントの企画。
- ✓ 加盟団体間交流や地域住民との交流の場として、支援センターを利用した夏祭りを企画。
- ✓ 自治会、各団体に施設内の事務機器使用を開放。同施設に人と情報が集まるしくみをつくっている。
- ✓ 7 市協議会を開催（八王子、三鷹、府中、調布・・・）横との比較で、それぞれの良し悪しが分かる。
- ✓ 活動費は市民フェアを例にとると、行政補助 30 万円、団体の参加費 20 万円、協賛金 15 万円、商店街応援券など。
- ✓ 市民フェアの参加者は女性 6 割。年齢層は 60～70 代、小学生が多い（中高生は少ない）

### ■M 氏のプロフィール

- ✓ 58 歳でサラリーマン辞める。自給自足の生活を目指すが断念。市民大学に通ったことをきっかけに地域活性化の活動に目覚める。
- ✓ 当時は、ひの市民活動団体連絡会として活動していたが、「これじゃダメだ」と感じて NPO 化。
- ✓ 社会福祉協議会、中央公民館、商工会、青年会議所、シルバー人材センターなどと地道に繋がりをつくり今日に至る（10 年経過）
- ✓ 同団体のゴールは「住みやすいまち、日野市に住んで良かった」と言えるまちにすること。

### ■日野市の状況

- ✓ 自治会参加率は 43%。新しい入居者が来ても、自治会に入るメリットが感じられないなどの理由で加入率は低下中。
- ✓ 市は、自治会や市民活動団体に補助金を給付している。
- ✓ 地域懇談会を開催、団体、個人、企業誰でも参加可能。日野市 8 地区から 40～70 名、合計 400 名ほどが参加する。地域の課題や魅力についてワークショップを行う。この地域懇談会の中から、各地区の活性化をめざす「アクションプラン」という有志の集まりが出来、それぞれお祭りや地区全体を巻き込んだラジオ体操など色んな活動を行っている。例としてななお BON まつりでは、幅広い年代が

楽しめるコンテンツを検討（ヒップホップにアレンジした東京音頭）。

#### ■デジタル化について

- ✓ 団体は高齢化しているが、オンラインでやらざるを得ない。失敗しても大勢に影響はない。トライ&エラーを繰り返している。
- ✓ 市ではスマホ教室を開催。人気ですぐに申し込みが埋まる。

#### ■同団体が抱える課題

- ✓ 後継者問題、各コミュニティ、活動センター自体の後継者がいない。
- ✓ 中学生がキーマン。災害時非難、中学生がマンパワーとして活躍（高校、大学生はいない）

#### ■総括

- ✓ 同団体がボランティア団体、市などのステークホルダーをつなぐハブとして存在。
- ✓ 地域コミュニティが希薄化する中で、人が集まる仕掛けを工夫されている。そういった活動を通じて、課題などの情報収集を行っている。
- ✓ オンライン等の新たな取り組みも積極的に導入。
- ✓ 団体毎の機能重複是正など、同法人が効率的なリソース配分に寄与している。
- ✓ 市内のコミュニティを冊子にまとめているのは分かりやすい。
- ✓ 地域懇談会は我々がしたいことに近いかもしれない。